

1 改訂の基本的な考え方

生活科においては、言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的にできるよう見直しを図った。

2 目標の改善

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

・他教科等と異なり、(1)では「知識及び技能の基礎」、(2)では「思考力、判断力、表現力等の基礎」と資質・能力の末尾を「～の基礎」とし、「見方・考え方を働かせ」とせず「生かし」とした。

Point 幼児期の学びの特性を踏まえ、育成を目指す三つの資質・能力を截然と分けることができないこと、幼児期における未分化な学習との接続という観点から、生活科が教育課程において、幼児期の教育と小学校教育とを円滑に接続するという機能をもつことを明示している。

・学年の目標を示すに当たり、「階層を踏まえた内容のまとまり」を基に三つの項目で整理している。この学年の目標に示された資質・能力は、指導計画の作成や学習指導の展開において重要な指針となるものであり、示された学年の目標は、第2学年修了までに実現することを目指すしている。

・生活科は第1学年及び第2学年に設定されている教科であるが、学年の目標は、2学年共通に示されている。

Point 創設以来、生活科では学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立という三つの自立への基礎を養うことを目指しており、今回の改訂でも、この理念を受け継いでいる。

Point 「自立し」とは、一人一人の児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら、将来の自立に向けてその度合を高めていくことを指す。

3 学習内容の改善・充実

・九つの内容を、学年の目標に即して、〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕、〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕、〔自分自身の生活や成長に関する内容〕の三つに整理した。

・生活科として育成を目指す資質・能力の実現に向けて、学年の目標と内容とがどのような関係と構造にあるのか分かりやすく明示した。

・具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのかが具体的にできるよう、各内容項目を見直した。

Point 第1の階層として、学年の目標の(1)、内容(1)、(2)、(3)の児童の生活圏としての環境に関する内容、第2の階層として、学年の目標(2)、内容(4)、(5)、(6)、(7)、(8)の低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容、第3の階層として、学年の目標(3)、自分自身の生活や成長に関する内容(9)自分の成長を位置付け、内容(1)～(8)の全ての内容との関連が生まれる階層として捉えること。

4 学習指導の改善・充実

・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視することとした。

Point 従前からの「気付きの質を高めること」という視点に立ち、気付いたことを基に考えることができるようにするためにも、「試す、見通す、工夫するなど」を新たに加え、一層の充実を図り、「深い学び」を表現すること。

・小学校入学当初に、幼児期の学びと育ちを踏まえて、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出そうとする児童の姿を実現するための具体的な視点や方法として、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うことなどが追記された。

Point スタートカリキュラムは、小学校生活のスタートを円滑に、そして豊かにするものである。全教職員でその意義や考え方、大切にしたいことなどを共通理解し、協力体制を組んで第1学年を見守り育てるとともに、児童の実態に即して毎年見直しを行いながら改善し、次年度につなげていくことが重要である。

・他教科等との関連では、生活科と他教科等との合科的・関連的な指導を行ったり、低学年の児童の生活とつながる学習活動を取り入れたりして、教科等横断的な視点で教育課程の編成、実施上の工夫を行うことが重要である。

Point (合科的な指導) 各教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1コマの時間の中で、複数の教科の目標や内容を組み合わせ、学習活動を展開するもの

(関連的な指導) 教科等別に指導するに当たって、各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて、相互の関連を考慮して指導するもの

・生活科の学習の充実が、第3学年以降の社会科や理科などのより系統的な学習や、各教科等の「見方・考え方」を生かして探究的に学ぶ総合的な学習の時間に発展的につながっていくことを意識することが大切である。